

**SONY**

## 2007年度第3四半期 連結業績概要

(2007年12月31日に終了した3ヶ月間)

Sony Corporation Investor Relations

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しにのみ全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。(1)ソニーの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向、(2)為替レート、特にソニーが極めて大きな売上または資産・負債を有する米ドル、ユーロまたはその他の通貨と円との為替レート、(3)継続的な新製品導入と急速な技術革新や、エレクトロニクス、ゲーム、映画分野および音楽ビジネスで顕著な主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争の中で、充分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービス(ゲーム分野において新たに導入されたプラットフォームを含む)をソニーが設計・開発し続けていく能力、(4)技術開発や生産能力増強のために行う多額の投資を回収できる能力およびその時期、(5)ソニーがエレクトロニクス分野で人員削減やその他のビジネス事業再編を成功させられること、(6)ソニーがエレクトロニクス、ゲーム、映画分野、その他および音楽ビジネスにおいてネットワーク戦略を成功させられること、映画分野および音楽ビジネスでインターネットやその他の技術開発を考慮に入れた販売戦略を立案し実行できること、(7)ソニーが主にエレクトロニクス分野において研究開発や設備投資に充分な経営資源を適切に集中させられること、(8)主にエレクトロニクス分野およびゲーム分野において、ソニーが製品品質を維持できること、(9)ソニーと他社との合併、協業、提携の成否、(10)係争中の法的手続きまたは行政手続きの結果、(11)生命保険など金融商品における顧客需要の変化、および金融分野における適切なアセット・ライアビリティ・マネージメント遂行の成否、および(12)市場の変動を含む)日本の株式市場における好ましくない状況や動向が金融分野の営業利益に与える悪影響などです。ただし、業績に不利な影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

Sony Corporation Investor Relations

**FY07.3Q 連結業績**
**SONY**

(億円)

	FY06.3Q	FY07.3Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
売上高および営業収入	26,077	28,590	+9.6%	+9%
営業利益	1,789	1,894	+5.8%	-25%
税引前利益	1,798	2,885	+60.4%	
持分法による投資利益(純額)	430	469	+9.0%	
当期純利益	1,599	2,002	+25.2%	
1株当り当期純利益(希薄化後)	152.49 円	190.29 円	+24.8%	
構造改革費用**	-3	112	+115	

為替変動による業績への影響額		平均レート	FY06.3Q	FY07.3Q
売上高および営業収入:	約 +151 億円	1 ドル	117 円	112 円
営業利益:	約 +545 億円	1 ユーロ	150 円	162 円

\* LCベース: 円と現地通貨との間には為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)

\*\* 構造改革費用は営業費用に含まれる

3

Sony Corporation Investor Relations

**FY07.3Q セグメント情報および関連会社業績**
**SONY**

(億円)

連結セグメント		FY06.3Q	FY07.3Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
エレクトロニクス	売上高	18,778	20,694	+10.2%	+10%
	営業利益	1,790	1,665	-7.0%	-21%
ゲーム	売上高	4,428	5,812	+31.2%	+29%
	営業利益(損失)	-542	129	-	-
映画	売上高	2,970	2,238	-24.6%	-21%
	営業利益	262	132	-49.7%	-48%
金融	金融ビジネス収入	1,729	1,359	-21.4%	
	営業利益(損失)	255	-42	-	
その他	売上高	940	960	+2.1%	
	営業利益	123	103	-16.1%	

\* LCベース: 円と現地通貨との間には為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)、映画については米ドルベース

主要持分法適用会社		10/06 - 12/06	10/07 - 12/07	前年同期比
ソニー・エリクソン (百万ユーロ)	売上高	3,782	3,771	-0%
	税引前利益	502	501	-0%
ソニー-BMG (百万ドル)	売上高	1,475	1,471	-0%
	税引前利益	277	265	-4%

ソニー・エリクソンはエリクソン社、ソニー-BMGはベルテルスマン社との間で、ソニーがそれぞれの50%の株式を保有する持分法適用会社です

4

Sony Corporation Investor Relations

FY07 連結業績見通し

SONY

(億円)

	FY06	10月時点の見通し	FY07 見通し	10月時点比増減
売上高および営業収入	82,957	89,800	89,800	-
営業利益*	718	4,500	4,100	-9%
うち、構造改革費用	388	450	450	-
税引前利益	1,020	5,000	4,900	-2%
持分法による投資利益(純額)	787	900	1,000	+11%
当期純利益	1,263	3,300	3,400	+3%
設備投資額	4,141	4,400	4,100	-7%
うち、半導体投資額	1,500	1,300	1,100	-15%
減価償却費**	4,000	4,300	4,300	-
研究開発費	5,439	5,500	5,500	-

為替レート	FY06 実績レート	FY07 下半期 前提レート	FY07.4Q 前提レート
1 ドル	116 円	115 円前後	105 円前後
1 ユーロ	149 円	160 円前後	155 円前後

\* FY07の営業利益見通しには、旧本社跡地の一部の売却益 607億円が含まれる(FY06には 217億円の売却益を計上)。また、FY06の営業利益にはノートPC用電池パックの自主回収および自主交換プログラムに関わる費用として512億円の引き当てが含まれる。  
\*\* 減価償却費は、無形固定資産と繰延保険契約費の償却費を含む。

FY07 連結業績見通し - 修正の主な要因

SONY

(億円)

	FY06	10月時点の見通し	FY07 見通し	10月時点比増減
売上高および営業収入	82,957	89,800	89,800	-
営業利益*	718	4,500	4,100	-9%
うち、構造改革費用	388	450	450	-
税引前利益	1,020	5,000	4,900	-2%
持分法による投資利益(純額)	787	900	1,000	+11%
当期純利益	1,263	3,300	3,400	+3%

修正に至った主な要因:

- 第3四半期の連結営業利益は、エレクトロニクス分野を中心に、10月時点の見通しを上回りましたが、外部環境の悪化に起因する以下の要因により、連結営業利益見通しを修正しました。
  - 第4四半期の前提為替レートにつき、10月時点の想定に比べて円高方向に修正したこと
  - 日本の株式市場の下落により、第3四半期のソニー生命において、転換社債などの評価損益が10月時点の見通しに比べて悪化したこと
  - 金融市場の環境悪化により、10月時点で見込んでいた資産売却益の第4四半期における計上額が想定を下回る見込みであること
- 上記の要因に加え、為替レートが想定より円高に推移していることにより、為替予約による利益が10月時点の想定に比べて増加する見通しであること、また、SFHの国内外における株式の募集および売出しに関して、10月時点の見通しに含まれていなかったグリーンシュエアオプションが上場後に行使されたため、想定を上回る利益を計上したことにより、税引前利益の見通しを修正しました。
- ソニーエリクソンの業績が10月時点の見通しに比べて好調であることにより、持分法による投資利益の見通しを修正しました。

\* FY07の営業利益見通しには、旧本社跡地の一部の売却益 607億円が含まれる(FY06には 217億円の売却益を計上)。また、FY06の営業利益にはノートPC用電池パックの自主回収および自主交換プログラムに関わる費用として512億円の引き当てが含まれる。

	目標数値 (FY07 末まで)	実績				
		FY05	FY06	FY07 YTD	FY05 + FY06 + FY07 YTD	
連結営業利益率 *	5%	2.0%	0.9%	5.5%	-	**
		3.9%	1.9%	6.0%	-	***
エレクトロニクス営業利益率 *	4%	-1.1%	2.6%	6.9%	-	**
		1.4%	4.1%	7.6%	-	***
✓ コスト削減(億円)	2,000	380	1,370	320	2,070	
製造拠点統廃合	65 のうち 11	9	0	0	9	

進捗状況は予定通り

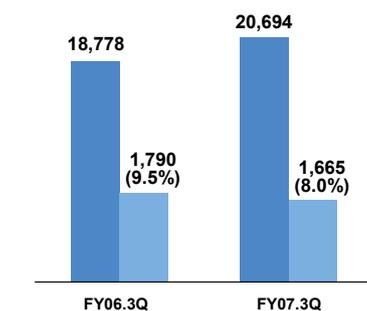
FY06 末までに達成した目標

モデル数削減 (FY05 比 -20%)、人員削減 (10,000人)、資産売却 (1,200 億円)

- ✓ FY07.3Q までに達成した目標
- \* 営業利益率は代行返上益とノートPC用電池パックの自主回収ならびに自主交換プログラムに関わる費用の引き当てを除く
- \*\* 構造改革費用を含む営業利益率
- \*\*\* 構造改革費用を除く営業利益率

売上高および営業利益

(億円)



FY07.3Q 業績

売上高: 10.2%増加 (外部顧客向け売上:14.0%増加)

- ・増収: 液晶テレビ「BRAVIA」、PC「VAIO」、デジタルカメラ「サイバーショット」
- ・減収: 液晶リアプロジェクションテレビ

営業利益: 7.0%減少

- ・(-)要因: 原価率の悪化、販売費・一般管理費の増加
- ・(+ )要因: 売上増、為替

製品別:

- ・増益: PC「VAIO」
- ・減益: システムLSI、液晶テレビ「BRAVIA」

構造改革費用: 112億円計上(前年同期 4億円戻し入れ)

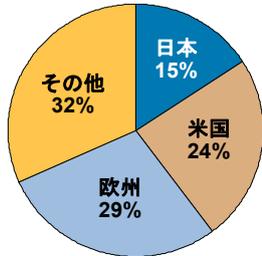
前年同期比 (LC)

売上高	+10.2%	+10%
営業利益	-7.0%	-21%

セグメント間取引を含む / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の(%)は営業利益率

FY07.3Q エレクトロニクス地域別売上

SONY



営業収入を除く  
外部顧客に対する売上  
18,515 億円 +14% (LC +13%)

■ 日本: +4%

- 増収: イメージセンサー、PC「VAIO」、フラッシュメモリー内蔵型「ウォークマン」
- 減収: 携帯電話端末

■ 米国: +7% (LC +11%)

- 増収: 液晶テレビ「BRAVIA」、PC「VAIO」、デジタルカメラ「サイバーショット」
- 減収: 液晶リアプロジェクションテレビ

■ 欧州: +15% (LC +9%)

- 増収: 液晶テレビ「BRAVIA」、PC「VAIO」
- 減収: 携帯電話端末

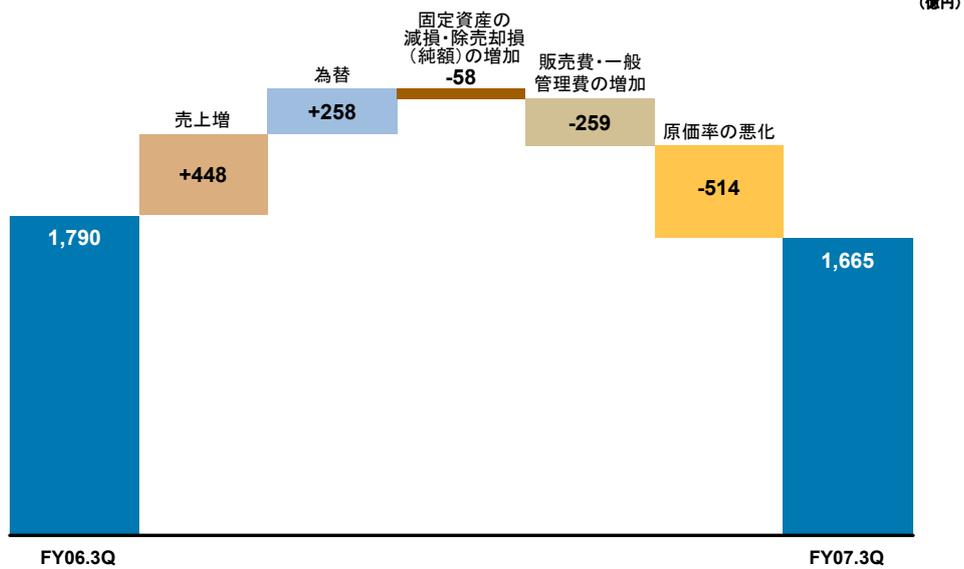
■ その他: +24% (LC +23%)

- 増収: 液晶テレビ「BRAVIA」、デジタルカメラ「サイバーショット」、PC「VAIO」
- 減収: ブラウン管テレビ

円グラフは地域別売上高構成比(円ベース) / 営業収入を除く外部顧客に対する売上 / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率

FY07.3Q エレクトロニクス営業利益増減要因

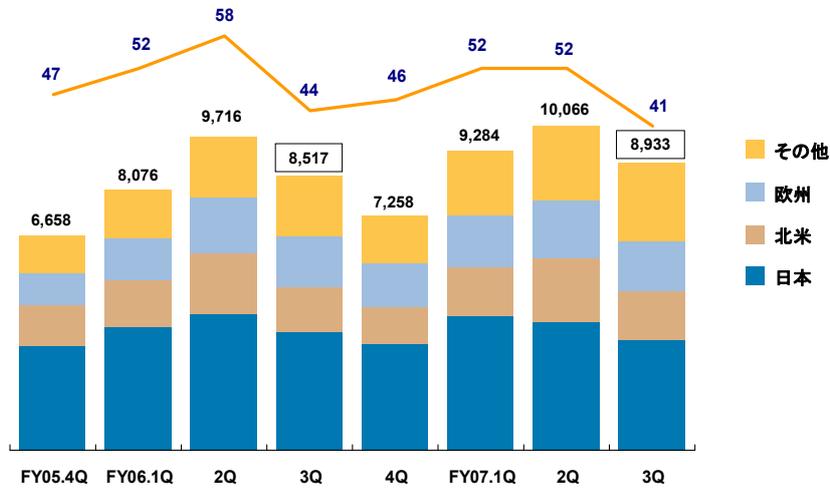
SONY



FY07.3Q エレクトロニクス連結棚卸資産(地域別)

SONY

(億円、日)



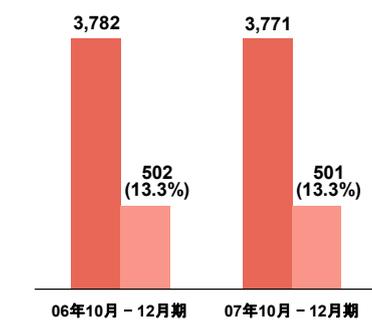
・ 8,933億円(前年同期末比416億円の増加。2007年9月末比では、1,133億円の減少)

棒グラフ: 棚卸資産(億円単位)  
折れ線グラフ: 棚卸資産回転日数(期首期末平均棚卸資産÷期中平均日次売上)

07年10月-12月期 ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ(持分法適用会社)

SONY

売上高および税引前利益 (百万ユーロ)



07年10月-12月期 業績

引き続き販売台数が成長

- 販売台数は前年同期比18%増加の約3,080万台
- 売上高は、普及価格帯機種構成比を戦略的に高めた結果、前年同期並みの37億7,100万ユーロ
- 税引前利益は、前年同期比ほぼ横ばいの5億100万ユーロ
- 主に、「ウォークマン®」携帯電話、「サイバーショット」携帯電話が業績に貢献

ソニーへの影響額: 持分法による投資利益は304億円

ソニー持分への影響額

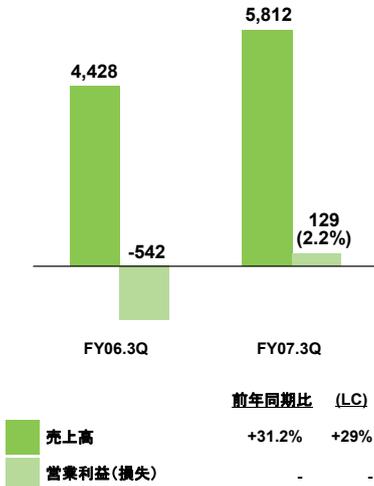
	10/06-12/06	10/07-12/07	前年同期比
当期純利益(百万ユーロ)	447	373	-17%
ソニー持分への影響額(億円)	336	304	-10%

税引前利益下の(%)は税引前利益率

## FY07.3Q ゲーム

SONY

### 売上高および営業利益(損失) (億円)



### FY07.3Q 業績

#### 売上高:

- PS3の売上増加により、セグメント全体で増収
- ハード、ソフトともに増収

#### 営業利益:

- PS3のハードウェアの製造コスト改善、およびPSPハード好調により全体で損益が大幅に改善
- PS2は減益となるも、ハード・ソフトともに利益に貢献

#### 棚卸資産額:

- 1,830億円
- 日米欧でのPS3プラットフォームの本格展開に伴い前年同期末比では増加
- 2007年9月末比では、年末商戦を終えて大幅減少

### 売上台数\*

		FY06.3Q	FY07.3Q	前年同期比
ハード(万台)	PS2	675	540	-20%
	PSP	471	576	+22%
	PS3	166	490	+195%
ソフト(万本)	PS2	7,860	6,090	-23%
	PSP	2,130	1,830	-14%
	PS3	530	2,600	+391%

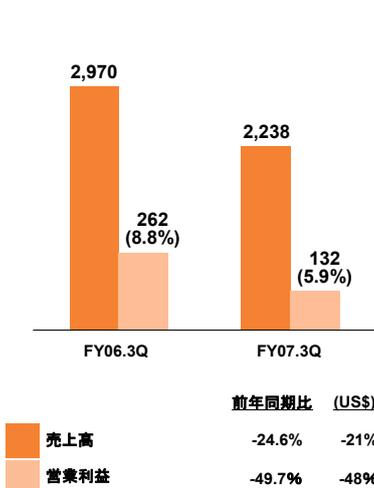
\*ソニーは、FY07.1Qより、ハードウェア、ソフトウェア製品の数量について、従来の生産出荷台数・本数から、売上台数・本数に変更しました。

セグメント間取引を含む / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の (%) は営業利益率

## FY07.3Q 映画

SONY

### 売上高および営業利益 (億円)



### FY07.3Q 業績

#### 売上高: 24.6%減少、米ドルベースで21%減少

- 主に、劇場興行収入およびテレビ局に対する映画作品の売上の減少による
  - 劇場興行収入が減少したのは、当四半期に公開された映画作品本数が前年同期に比べ減少したこと、および当四半期には、前年同期に公開され非常に高い劇場興行収入を記録した「007/カジノ・ロワイヤル」および「幸せのちから」に匹敵するような作品の不在
  - テレビ局向けの売上は、前年同期にいくつかの米国テレビ局向けの映画作品の売上が好調だったことにより減少
- DVDソフトは、当四半期において「スパイダーマン3」および「スーパーバッド」が大きく貢献したことにより、前年同期と同様に好調な売上を記録

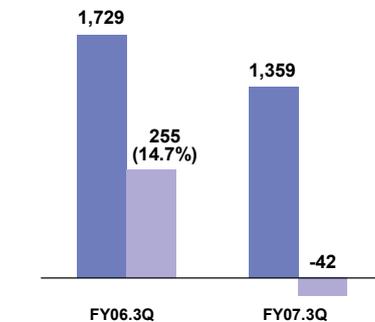
#### 営業損益: 49.7%減少、米ドルベースで48%減少

- 当四半期に劇場公開された映画作品が前年同期に公開された作品に比べ不振だったこと、および上述のテレビ局向け映画作品の売上が減少したことによる

セグメント間取引を含む / US\$: SPEの米ドルベースの伸び率 / 営業利益下の (%) は営業利益率

## 金融ビジネス収入および営業利益(損失) (億円)

## FY07.3Q 業績



	前年同期比
金融ビジネス収入	-21.4%
営業利益(損失)	-

## 金融ビジネス収入: ソニー生命の減収により、21.4%減少

- ソニー生命の収入: 27%減少
- (-) 要因: 一般勘定での転換社債の評価損益悪化および株式の減損、特別勘定での運用損益の悪化
- (+) 要因: 保有契約高の堅調な推移による保険料収入の増加

## 営業利益: ソニー生命の損益悪化により損失計上

- ソニー生命の営業利益: 60億円の損失計上
- (-) 要因: 転換社債の評価損益悪化および株式の減損など
- (+) 要因: 保険料収入の増加
- ソニー損保、ソニー銀行のビジネスは順調に推移

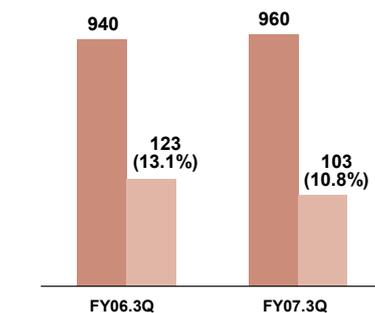
## ソニー生命の業績

	FY06.3Q	FY07.3Q	前年同期比
収入 (億円)	1,475	1,078	-27%
営業利益(損失) (億円)	259	-60	-

セグメント間取引を含む / 営業利益下の (%) は営業利益率

## 売上高および営業利益 (億円)

## FY07.3Q 業績



	前年同期比
売上高	+2.1%
営業利益	-16.1%

SMEIの音楽出版事業およびSMEJの業績を含む

## 売上高: 前年同期比2.1%の増収

- 主に、米国の音楽出版子会社である Sony/ATV Music Publishing が前四半期に買収した Famous Music の売上の寄与、同ビジネスが連結対象となったこと、ソネットエンタテインメントにおける増収、およびソニー・エリクソンからの商標権使用料収入増加による

## SMEJ

- 当四半期の売上貢献アルバム: L'Arc~en~Ciel の「KISS」および Aqua Timez の「ダレカの地上絵」など

## 営業利益: 16.1%減益の103億円

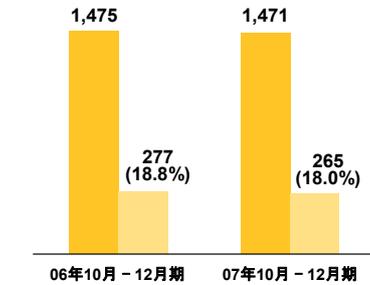
- ソニー・エリクソンからの商標権使用料収入は増益要因だが、主に SMEJ の減益で全体では減益。

セグメント間取引を含む / 営業利益下の (%) は営業利益率

売上高および税引前利益

(百万ドル)

07年10月 - 12月期 業績



売上高はほぼ横ばい、税引前利益は4%減少

- 売上高: 全世界におけるパッケージメディアの音楽市場が引き続き縮小した影響があったものの、最近発売したいくつかの作品の売上が好調であったこと、および米国外の売上に関する為替のプラスの影響などにより、前年同期比ほぼ横ばい
- 当四半期の貢献作品: Alicia Keys の「As I Am」、セリーヌ・ディオンの「Taking Chances」、Carrie Underwood の「Carnival Ride」、Leona Lewis の「Spirit」など
- 税引前利益: 前年同期に主要レコード会社とともに提訴した訴訟の和解金を得ていたことなどにより減少

ソニーへの影響額: 持分法による投資利益は115億円

前年同期比

売上高	-0%
税引前利益	-4%

ソニー持分への影響額

	10/06-12/06	10/07-12/07	前年同期比
当期純利益 (百万米ドル)	236	208	-12%
ソニー持分への影響額 (億円)	131	115	-12%

税引前利益下の (%) は税引前利益率

FY07 エレクトロニクスおよびゲームの売上台数見通し

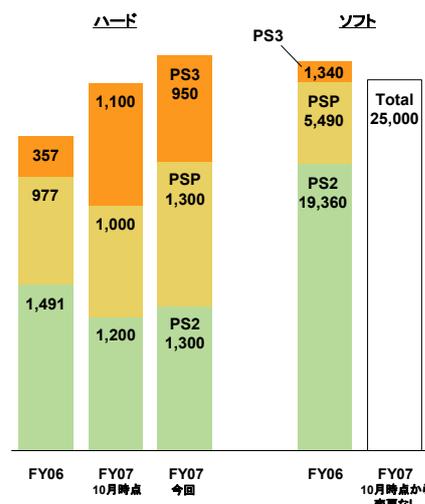
エレクトロニクス

(万台)

	FY06	FY07	
		10月時点	今回
デジタルミュージックプレイヤー「ウォークマン®」	450	500	550
ビデオカメラ「ハンディカム®」	745	750	750
デジタルカメラ「サイバーショット」	1,700	2,200	2,200
DVDビデオプレーヤー	790	700	700
DVDレコーダー	185	170	170
液晶テレビ「BRAVIA」	630	1,000	1,000
液晶リアプロジェクションテレビ	110	40	40
ブラウン管テレビ	470	280	280
PC「VAIO」	400	500	520

ゲーム

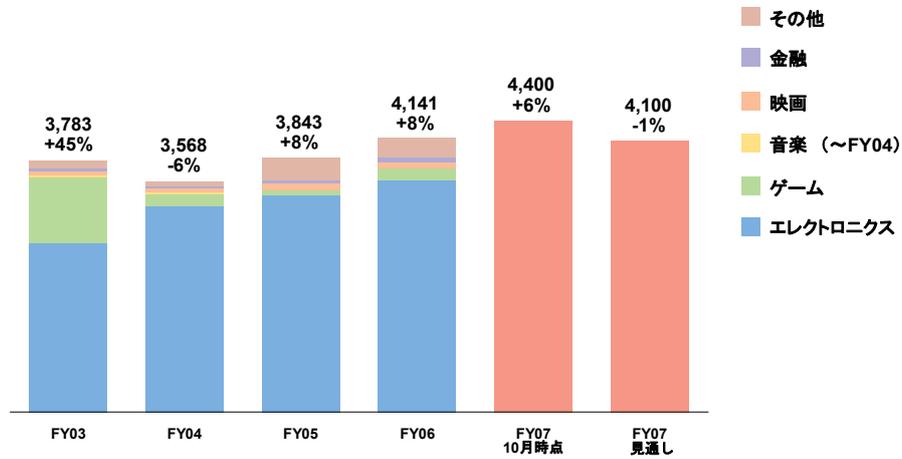
(万台、万本)



## FY07 設備投資額見通し

SONY

(億円)



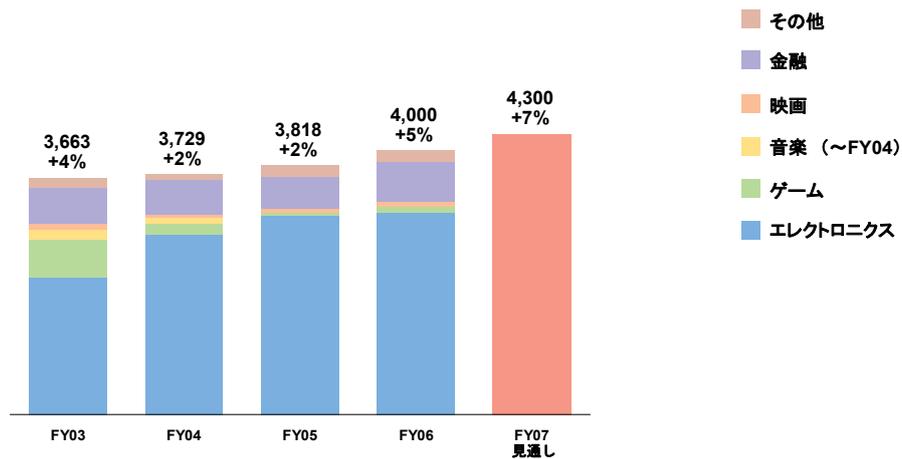
- ・ FY07設備投資額見通しのうち、半導体向けは1,100億円(前年度1,500億円)

%は前年度比伸び率

## FY07 減価償却費および償却費見通し

SONY

(億円)



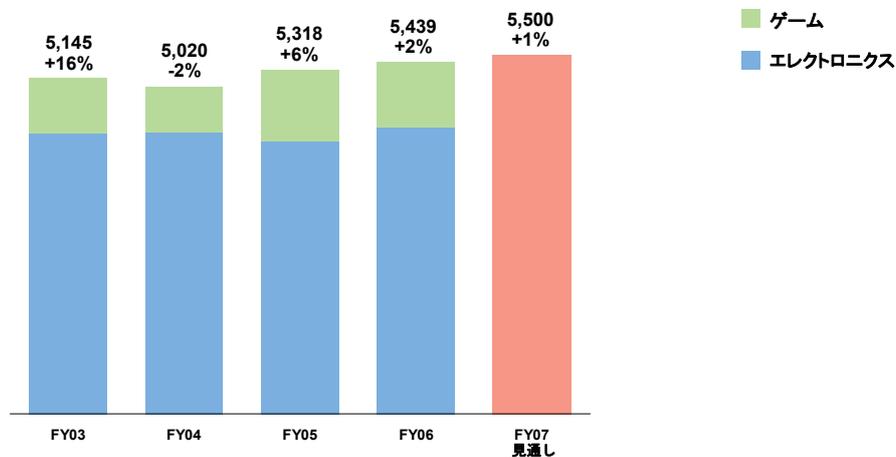
- ・ FY07減価償却費および償却費見通しのうち、有形固定資産分は3,500億円(前年度3,158億円)
- ・ 10月時点の見通しから変更なし

%は前年度比伸び率

## FY07 研究開発費見通し

SONY

(億円)



- ・ 10月時点の見通しから変更なし

%は前年度比伸び率

## FY07 4月-12月期 連結業績

SONY

(億円)

	4/06 - 12/06	4/07 - 12/07	前年同期比	前年同期比(LC*)
売上高および営業収入	62,061	69,186	+11.5%	+8%
営業利益	1,851**	3,792***	+104.8%	+45%
税引前利益	2,077	4,602	+121.5%	
持分法による投資利益(純額)	663	900	+35.6%	
当期純利益	1,939	3,404	+75.6%	
1株当り当期純利益(希薄化後)	184.81 円	323.42 円	+75.0%	
構造改革費用****	157	331	+174	

### 為替変動による業績への影響額

	約	平均レート	4/06 - 12/06	4/07 - 12/07
売上高および営業収入:	約 +1,939 億円	1 ドル	115 円	116 円
営業利益:	約 +1,105 億円	1 ユーロ	146 円	161 円

- \* LCベース: 円と現地通貨との間には為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)
- \*\* ノートPC用電池パックの自主回収および自主交換プログラムに関わる費用として512億円の引き当てが含まれる
- \*\*\* 旧本社跡地の一部の売却益607億円が含まれる
- \*\*\*\* 構造改革費用は営業費用に含まれる

FY07 4月-12月期 セグメント情報および関連会社業績

SONY

(億円)

連結セグメント		4/06 - 12/06	4/07 - 12/07	前年同期比	前年同期比(LC*)
エレクトロニクス	売上高	45,370	51,618	+13.8%	+10%
	営業利益	2,345	3,575	+52.5%	+19%
ゲーム	売上高	7,356	10,212	+38.8%	+34%
	営業利益(損失)	-1,245	-1,130	-	-
映画	売上高	6,799	6,448	-5.2%	-6%
	営業利益	98	192	+95.6%	+87%
金融	金融ビジネス収入	4,651	4,782	+2.8%	
	営業利益	546	527	-3.5%	
その他	売上高	2,637	2,754	+4.5%	
	営業利益	236	289	+22.6%	

\* LCベース: 円と現地通貨との間に変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)、映画については米ドルベース

主要持分法適用会社		4/06 - 12/06	4/07 - 12/07	前年同期比
ソニー・エリクソン (百万ユーロ)	売上高	8,967	9,991	+11%
	税引前利益	1,146	1,212	+6%
ソニー-BMG (百万ドル)	売上高	3,295	3,197	-3%
	税引前利益	172	304	+77%

ソニー・エリクソンはエリクソン社、ソニー-BMGはベルテルスマン社との間で、ソニーがそれぞれの50%の株式を保有する持分法適用会社です